

備前市事務事業評価表

事務事業名	上水道管理運営事業	コード	01-01-09-01
		担当課・係	水道工務課配水係
		担当者	高井 利広
事業実施期間	平成18年度	電話	0869-66-9793
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり	
	中項目(基本施策)	生活しやすいまちづくり	
	小項目(施策)	上水道及び簡易水道（施設の計画的な整備と簡易水道などの統合、震災・災害などに対する世帯整備、環境対策と安定供給）	

事業について	
目的 (何のために)	水道は、市民の日常生活に直結し健康を守るために欠くことのできないもので、平素から配水・給水の漏水防止等維持管理に努めるとともに、水道施設の老朽化及び故障等による障害を幾多の改良等を経て随時解消していますが、平成18年度に策定した水道施設整備等計画を基本に震災等に対する環境対策を考慮した施設を計画的に整備し、安全・良質・安価な水道水の安定供給を図る。
対象 (誰・何を対象に)	水道使用者（備前、日生及び吉永供給地区 40,657名）
内容	給水・配水施設の維持管理、建設、改良、移転、修繕業務及び施設の更新計画等の樹立）

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	回数など (単位)
配水量	7,011,733 m ³	6,556,392 m ³	
有収水量	6,275,830 m ³	6,032,855 m ³	
有収率	89.5 %	92.01 %	
給水人口	41,311 名	40,657 名	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費 428,971	間接補助金等 0	直接事業費 435,414	間接補助金等 0	直接事業費 85,220	間接補助金等 520,634	直接事業費 0	間接補助金等 0
	人件費 64,890	受益者負担 0	人件費 85,220	受益者負担 0	人件費 0	受益者負担 0	人件費 0	受益者負担 0
	市債 0		市債 0		市債 0		市債 0	
合計	493,861	一般財源等 0	520,634	一般財源等 0	合計	0	一般財源等 0	0

結果指標①	結果指標名	有収水量	有収水量
	結果指標量	6,275,830	6,032,855
	単位	m ³	m ³
	対前年比	-	96.13%
結果指標②	活動にかかるコスト	493,861,000 円	520,634,000 円
	単位当たりコスト①	78.69 円	86.29 円
	結果指標名	給水人口	給水人口
	結果指標量	41,311 名	40,657 名
	対前年比	-	98.42%
	活動にかかるコスト	493,861,000 円	520,634,000 円
	単位当たりコスト②	11,954.70 円	12,805.51 円

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	水道事業体として、安全でおいしい水を効率よく安定的に供給する。		
成果指標名	有収率	式又は説明	総配水量に対する有収水量の割合
	17年度	18年度	
成果指標量	90	92	
対前年比	-	102.80%	0.00%
到達目標値	95	到達目標年度	21年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 水道法	妥当性評価<A~E> A 課題認識
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	水道は、市民の日常生活に直結し健康を守るために欠くことができないもので、安定供給を図るためには、平素から施設の維持管理、建設、改良、修繕及び老朽化した施設を計画的に更新また、統廃合による施設整備が必要で妥当である。
	市民ニーズの妥当性	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である		
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> A 課題認識
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	今後の施設老朽化等に伴う更新事業費用の増加は止むを得ないが、各事業に対しコスト削減の努力をし事業効果が高まるように努める。
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> A 課題認識	
有効性の評価	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	漏水調査等計画的に実施して無収水量の減少に努めるとともに、老朽化した施設を更新、施設の統廃合を視野に入れ計画的に整備し、効率的に水道水の安定供給を図る。
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

平成19年度の状況		説明 水道事業は、さまざまな課題を抱えている。給水人口の減少、また景気低迷に伴う水需要の減少による給水収益の減少。また施設の老朽化対策、安全な水質の確保、地震等災害対策などを盛り込んだ施設整備計画（10年計画）を平成17年～18年度にかけて策定し19年度から計画を再度検討しながら順次整備移る。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		
目標値	結果指標量①	6,163,000
	結果指標量②	-
	成果指標量	94%

総合評価	水道事業の経営にあたって、水道は市民の日常生活に直結しているため、住民サービスの低下にならないよう、また無収水量を減少させ効率的な配水を行い、安心して良質な水道水を安価で安定供給し、給水の適正を保持するのに不可欠な事業である。	評価区分 <A~E> A
------	---	--------------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
--------------	---	---

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	老朽施設の統廃合を視野に入れた施設更新等整備	平成20年度～	効率的な水道水の安定供給
効率性	施設等整備費用のコスト削減	平成20年度～	コスト削減により水道料金への反映を軽減する。
有効性	施設等更新整備に伴う施設の耐震化	平成20年度～	有収率の向上及びさらなる水道水の安定供給